

酪農経営関係ヒアリング御協力者の概要

株式会社 ファームノートデーリィプラットフォーム

代表取締役 ^{たいら}平 ^{ゆうと}勇人

- ・ 所在地 北海道標津郡中標津町
- ・ 設立年 2019 年 8 月
- ・ 従業員数 15 人
- ・ 飼養頭数 4 牧場管理 総飼養頭数 1455 頭（うち経産牛 885 頭）
- ・ 生乳生産量 8,320 トン/年（平均個体乳量 37kg/日）
- ・ 搾乳形態 搾乳ロボット
- ・ ICT 機器の活用 有（搾乳ロボット、ウェアラブルデバイス、牛群管理ソフト）
- ・ 外部支援組織等の活用 無
- ・ 平均除籍産次 5.6 産
- ・ 経営面積
自給飼料の生産は行っていない。

(トン)

年間給餌量の内訳		粗飼料	濃厚飼料
購入飼料	配合飼料		5,200
	グラスサイレージ	15,100	
	デントコーンサイレージ	5,500	

・ 経営の特色等

未利用牛舎や離農する牛舎を賃借した上で、生産性が高まるようにその牛舎をリフォームして運営している。また、それまでの生産者は牧場のオーナーとなり、飼料作りを委託することでオーナーの離農後の生活の安定と、弊社の地域連携を進める取り組みとしている。

牧場の運営には ICT 機器の活用を軸に、牧場作業の自動化システムを組み込んで、経験や性別に関わらず誰でも牧場運営ができる仕組みづくりをしている。

また、牧場から排出される GHG 削減にも取り組んでおり、糞尿処理方法の改善による GHG 削減によって畜産において日本で初めて Jクレジット認証を取得し、排出権の販売を行なっている。

食料・農業・農村政策審議会畜産部会 ヒアリング資料

株式会社ファームノートデーリィプラットフォーム
平勇人

ファームノートデリープラットフォームの事業



搾乳頭数

885頭

総管理頭数

1,455頭

生乳出荷量

8,800t /年(R6計画)

管理牧場数

4牧場

- 2019年 8月 株式会社ファームノートデリープラットフォーム設立
- 2019年10月 フィンランドへの4dBarn社視察
- 2020年 3月 中標津牧場の設立に向け、4dBarn設計の牛舎リフォーム工事開始
- JA中標津町組合員の加入承認
- 2020年 5月 採卵用の和牛導入
ホルスタイン導入（希望農場での搾乳預託開始）
- 2020年 8月 中標津牧場の牛舎工事完了、搾乳開始**
- 2020年10月 固液分離によるマニユアソリッド敷料の生産開始
- 2020年11月 地域の和牛繁殖牧場と連携し初の採卵および受精卵生産
- 2021年 4月 ゲノム検査開始。2020年導入NM\$8 → 2023年生NM\$700**
- 2022年 4月 牛群平均個体乳量が41kg/日に到達
- 2022年 9月 第2牧場の牧場事業を継承
- 2022年 9月 「家畜排せつ物管理方法の変更」による日本初のJ-クレジット認証取得。**
年間149トン相当の二酸化炭素削減を実現
- 2022年12月 伸託牧場の経営マネジメント開始
- 2023年 1月 希望農場との業務統合・希望農場の経営マネジメント開始

高収益酪農経営モデル：FDPモデル



デジタル化

IoT・AI技術で生産データを分析

×



自動化

自動化技術を牛舎に統合

×



生産技術

獣医師による疾病予防・繁殖管理

Farmnote Dairy Platform



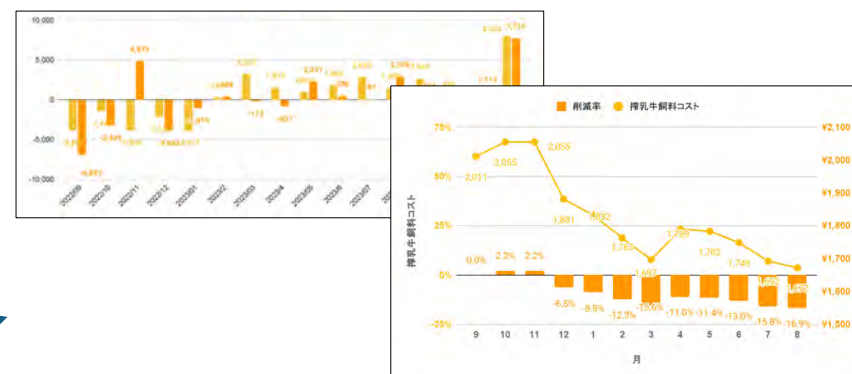
生産者に提供

酪農生産のDX化を推進

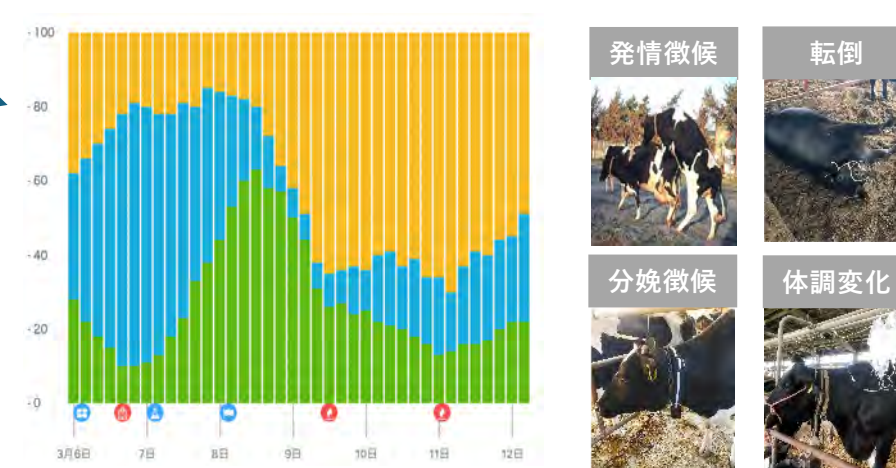
省力化・生産性改善により生産者の利益向上

酪農業務のデジタル化

経営や牛群の状態を可視化



牛個体の毎の状態を可視化



牛群管理ソフト



搾乳ロボット



ウェアラブル
センサー



検定データ



データベース

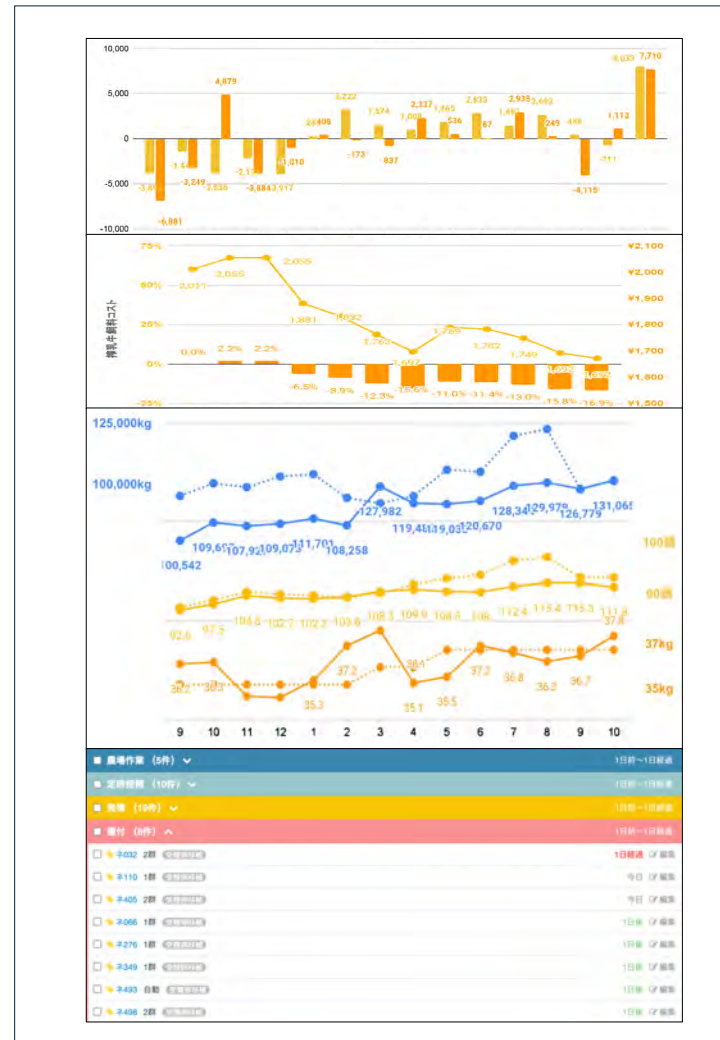
経営や牛群の状態を可視化

利益の推移

売上・コストの推移

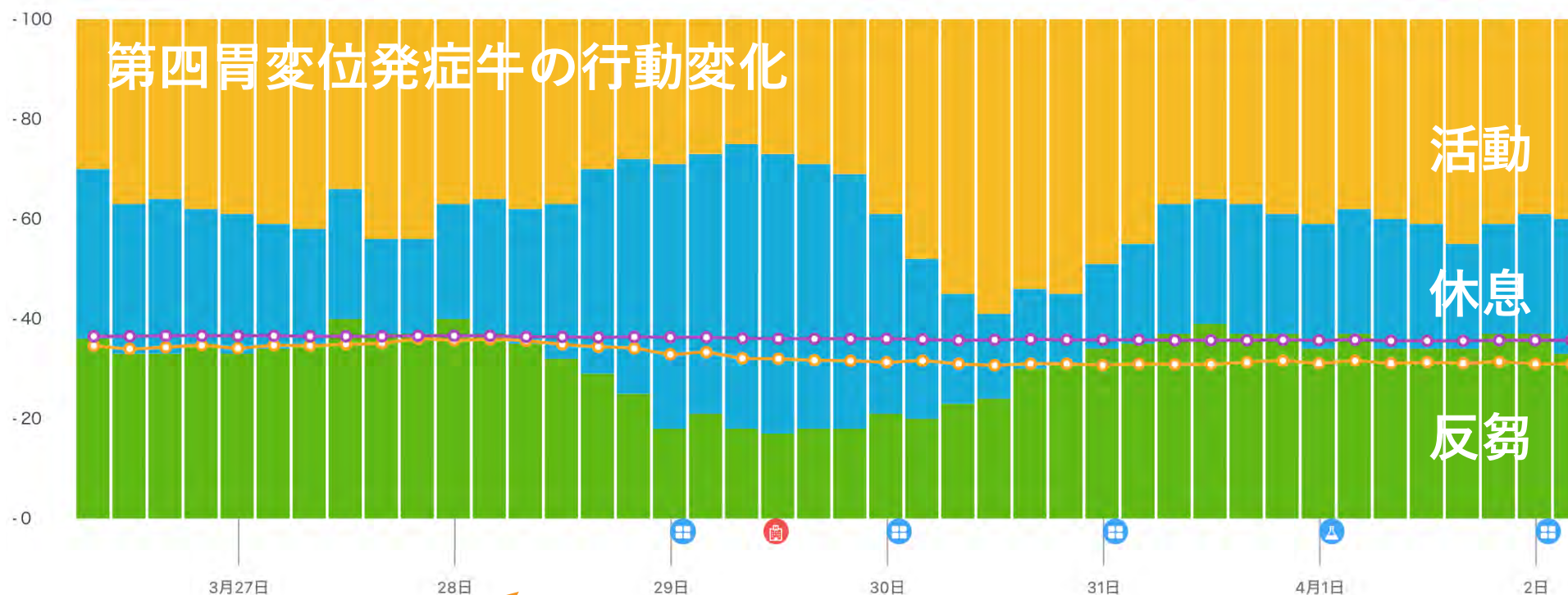
生産性の推移

日々の牧場業務の
ToDo



経営KPI～生産KPI
～日々の業務
を可視化しながらの
牧場運営を実施

牛個体毎の状態の可視化

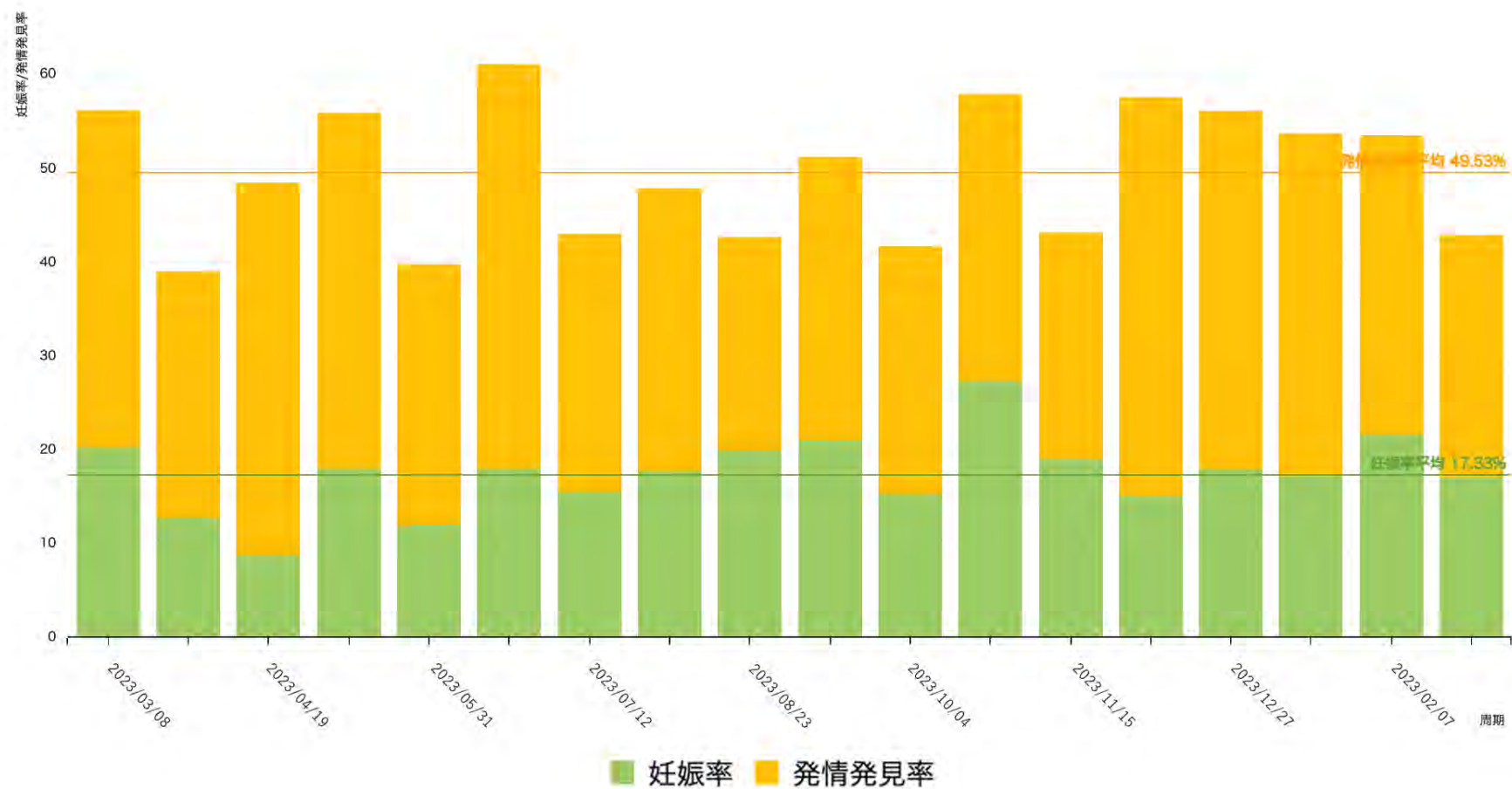


センサーによる発見
内科治療のみでの回復



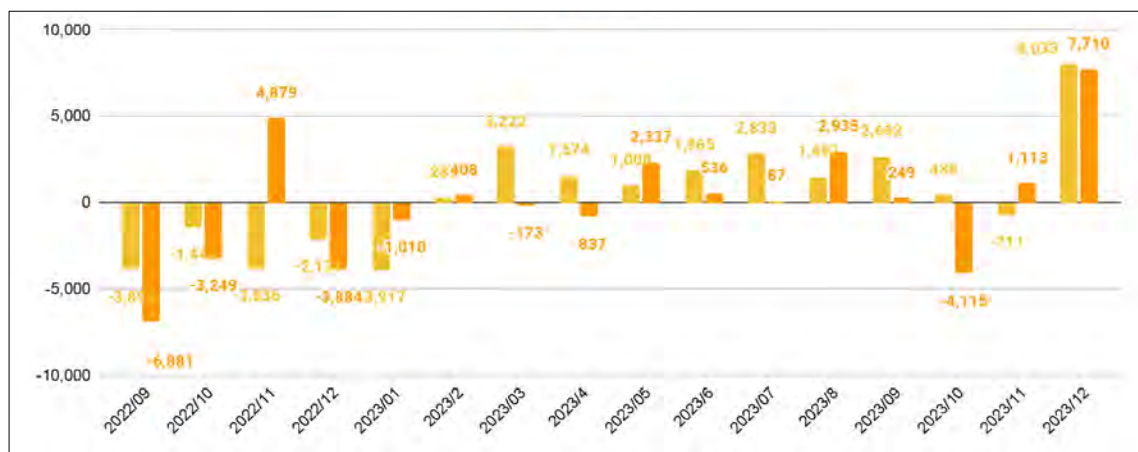
販売できなかった淘汰牛
8.1%

繁殖成績



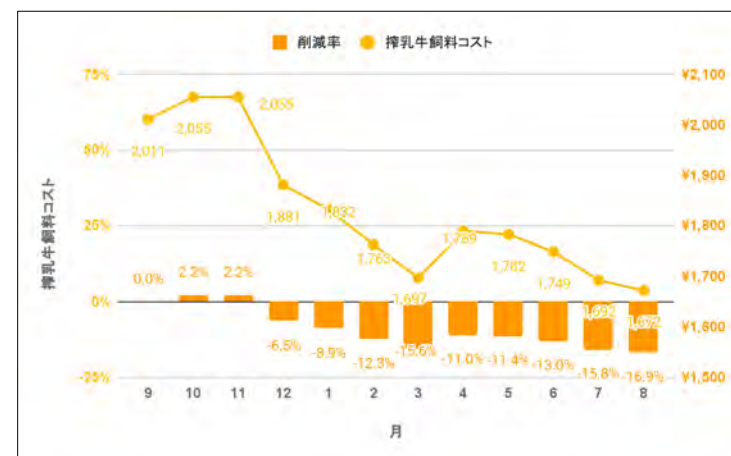
酪農経営状況の向上を実現

EBITDAの推移



乳価上昇前からのEBITDA黒字化の実現
(2022.9→2023.8)

飼料コストの推移



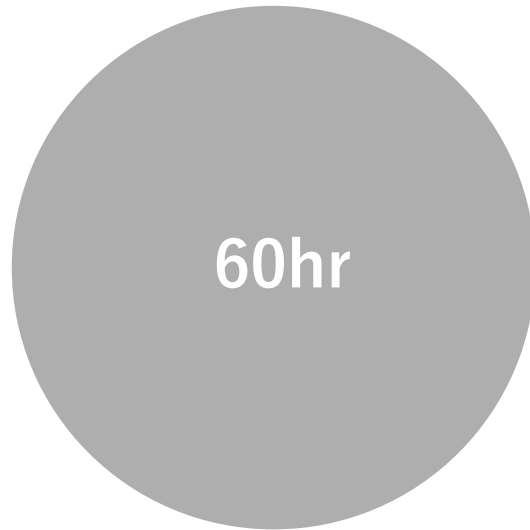
最適な飼料設計、飼料管理業務による
飼料コストの17%の削減
(2022.9→2023.8)

酪農業務の自動化

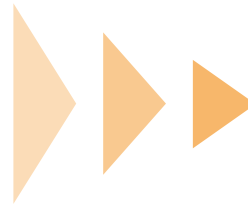


労働生産性の向上

酪農産業における
1日の平均総労働時間



DP牧場における
1日の総労働時間



年間総労働時間21,172時間、年間平均労働日数(365-平均休日日数(17.7日))から算出
「平成29年営農類型別経営統計（組織法人経営編）」（農林水産省）
「酪農全国基礎調査」からみる 日本酪農の現状」（中央酪農会議）

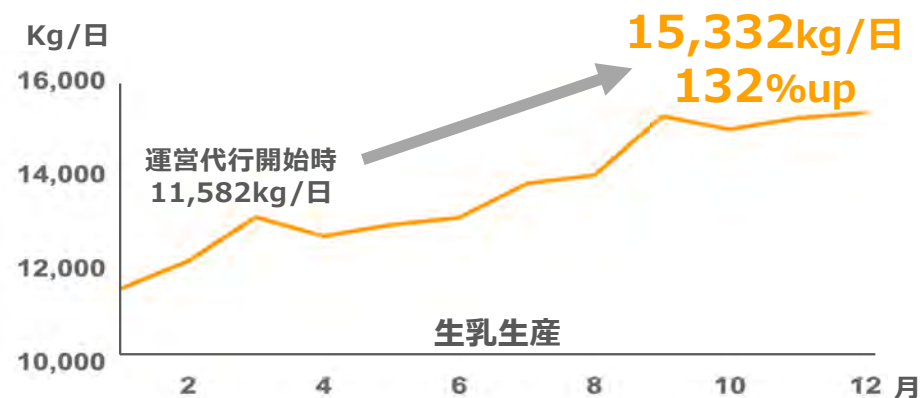
2（人）× 10（時間/日）

酪農生産モデル構築：牧場運営代行

希望農場（中標津町）



伸託牧場（別海町）



収益性 1,4億円/年 改善

経営サポート前
形態：繁殖和牛
飼養頭数：120頭
収益性：赤字経営

経営サポート後
形態：預託育成
飼養頭数：340頭
収益性：単月黒字化

GHG排出削減とJクレジット認証

環境負荷軽減に向けた3つ取り組み

①特殊なふん尿処理による温室効果ガスの削減（固形分の利活用）

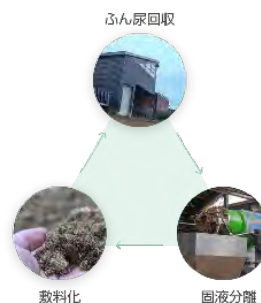
一般的な手法



ふん尿の貯留槽は
上部が開放されている

温室効果ガスを排出*1

当社の手法



貯留をせず、
牛のベッドにリサイクル（敷料化）

温室効果ガスの削減が期待できる

農水省が推進する「みどりの食料システム戦略*2」の
「2050年までに農林水産業のCO2ゼロエミッション化」に貢献

②微生物発酵によるふん尿（液体分）の利活用 実証実験中



「みどりの食料システム戦略*2」の
「2050年までに化学肥料の使用量を30%削減」に貢献

③温室効果ガス（ゲップ由来）を抑制する餌やり 展開予定



「みどりの食料システム戦略*2」の
「2050年までに農林水産業のCO2ゼロエミッション化」に貢献